

## 国際会議報告



# The 55th Annual Microwave Power Symposium (IMPI 55 Virtual Symposium) 報告

## International Microwave Power Symposium (IMPI 55) Report

上智大学理工学部物質生命理工学科 堀越 智

Sophia University, Satoshi Horikoshi

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

e-mail: horikosi@sophia.ac.jp

今年で55回目となる International Microwave Power Institute 国際会議 (IMPI 55) は新型コロナウイルスの感染防止のために、昨年と同様にオンラインでバーチャルに行われた。筆者は毎年実行委員を勤めているが、昨年の混乱の教訓から、今年は主催者・参加者共に十分な準備期間を設けて、混乱もなく会が進められた。この成功の裏には、オンライン独自の問題点を洗い出し、それに対応するための運営も行われた事による。例えば発表はオンラインとオンデマンドが選べ、多くの発表者がオンデマンドを選ぶことで、時間の超過を防止し、スムーズな運営が行われた。また、質問は全てチャットで挙げられ、質問時間を超過して聞けなかった部分も履歴が残るようにするなどの工夫がされた。発表者に利益があるように、きめ細やかな運営を目指すなど小さな学会だからできる利点を生かした。こういった点は JEMEA も見習うべきところがあるかもしれない。



図1 参加者のほとんどが自宅で学会参加した

また、要旨原稿に対しても IMPI で議論できるレベルまで審査員が何度も発表者とやりとりをして、内容の質を高める試みも行われた。

本シンポジウムでは、初日にショートコースがあり、半導体式発振器についての講義と今後のビジネス戦略を関係各社が集まり議論をした。二日目からは依頼講演と一般の発表が進められた。依頼講演者は各分野から4名が選出され、ヴァンダービルト大学の Bruce 教授がセラミックス分野について、アメリカ国立エネルギー技術研究所の Ellison 博士が誘電因子について、Cober Electronics 社の Krieger 氏がマイクロ波と IoT のビジネス展開について、最後に筆者が液中プラズマの基礎と応用について講演を行なった。一般発表では、セラミックス、材料、農業、医療、食品、計測、新技術などの分野に別れ、非常に活発な議論が行われた。特に、新しいビジネスの動きに対する議論に注目があり、情報交換の場としての学会の役割が大いに機能していた。

一転してコーヒーブレイクでは、新型コロナウイルスの状況や家族のことなどで話が弾み、IMPI ならではの活気のある会であった。また、日本をはじめ世界中から参加があり、時差をものともせず、議論が白熱した。

次年度は、6 月に対面で行うことが決定しており、ジョージア州の都市であるサバンナで開催されます。ぜひ来年の IMPI にご参加いただき、白熱した議論を行いましょ